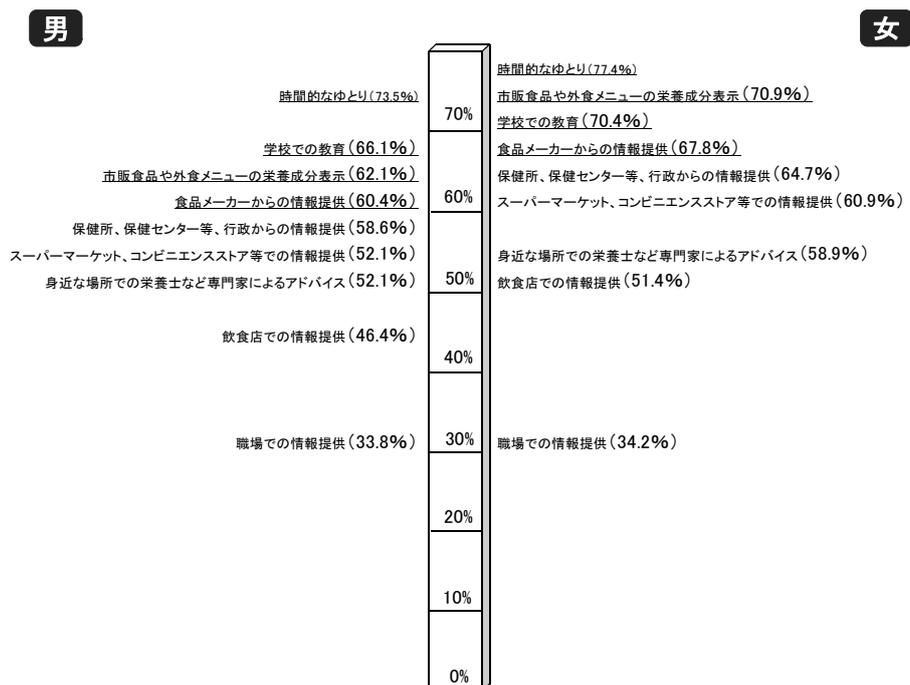


食習慣改善のために必要なことは、「時間的なゆとり」、「学校での教育」、「市販食品や外食メニューの栄養成分表示」、「食品メーカーからの情報提供」が男女共に上位

「食習慣を改善しようとする場合、どのようなことが必要だと思いますか」について、男女共に「時間的なゆとり」、「学校での教育」、「市販食品や外食メニューの栄養成分表示」、「食品メーカーからの情報提供」を「必要と思う」と回答した者の比率が高かった。また、「身近な場所での栄養士など専門家によるアドバイス」と回答した者の比率は、男性約50%、女性約60%であった。

図20 食習慣改善のために必要なこと（15歳以上）

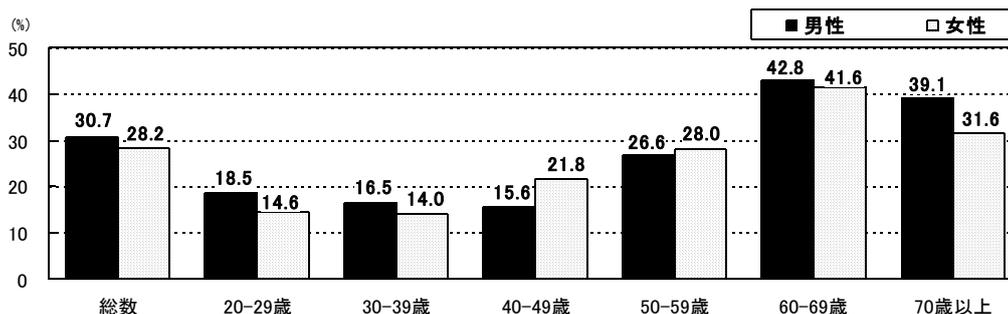


2. 運動習慣の状況

運動習慣のある者の割合は、男性は40歳代、女性は30歳代で最も低く、男女共に60歳代で最も高く約4割

運動習慣のある者の比率は、男女共に60歳代が最も高く約40%であった。

図21 運動習慣のある者の割合（20歳以上）

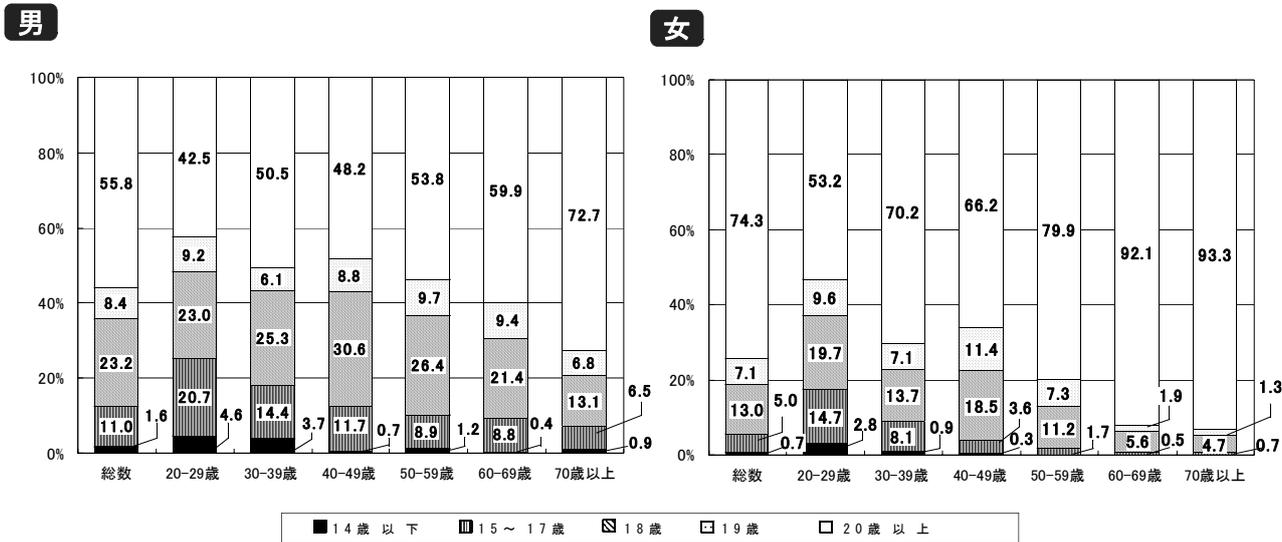


運動習慣のある者：1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している者

3. 飲酒の状況

20歳未満で初めて飲酒した者の割合は、男性の20～50歳代、女性の20歳代で約5割
 (少量の試し飲みは除く)

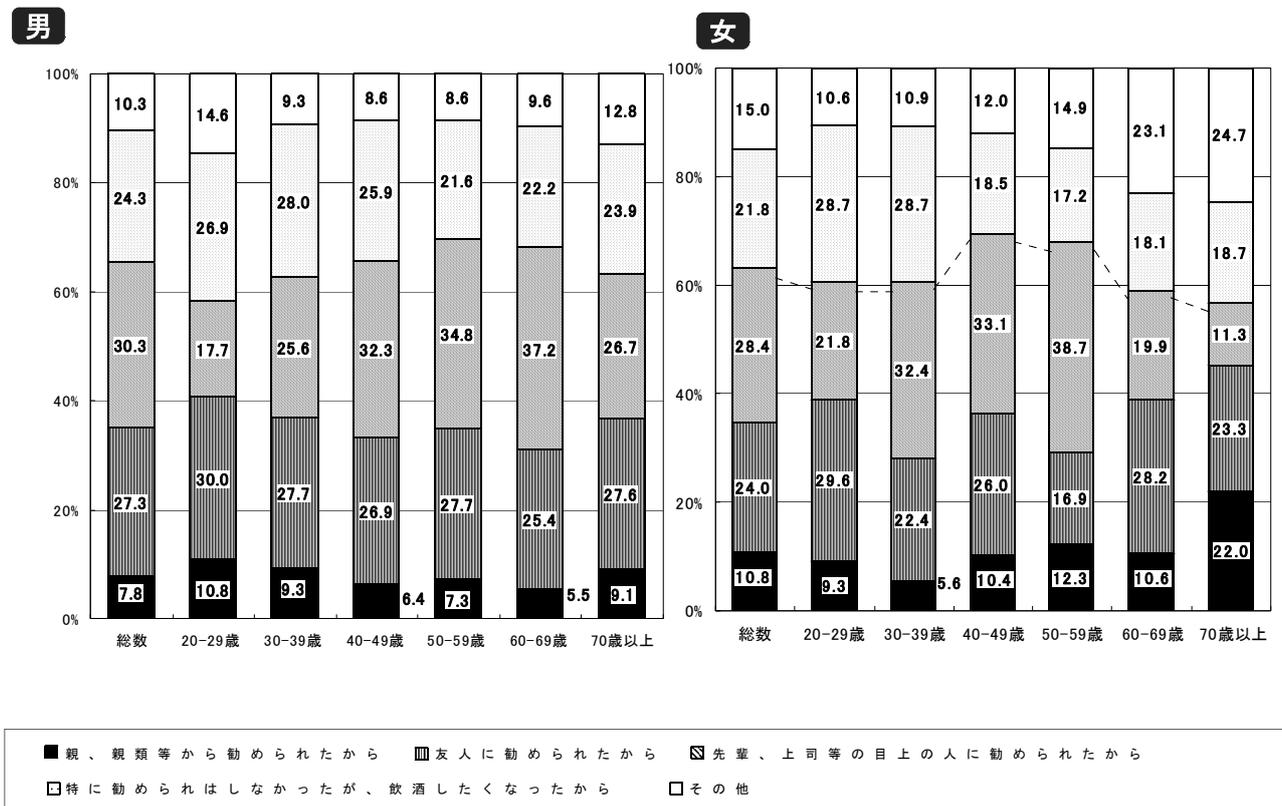
図22 初回飲酒年齢(20歳以上)



初めて飲酒したきっかけは、男女共に約6割が周囲からの勧め

「初めて飲酒をしたきっかけ」について、「先輩、上司等の目上の人に勧められたから」、「友人に勧められたから」、「親、親類等から勧められたから」を合わせると、男女共に各年代において、約60～70%であった。

図23 初めて飲酒したきっかけ(20歳以上)

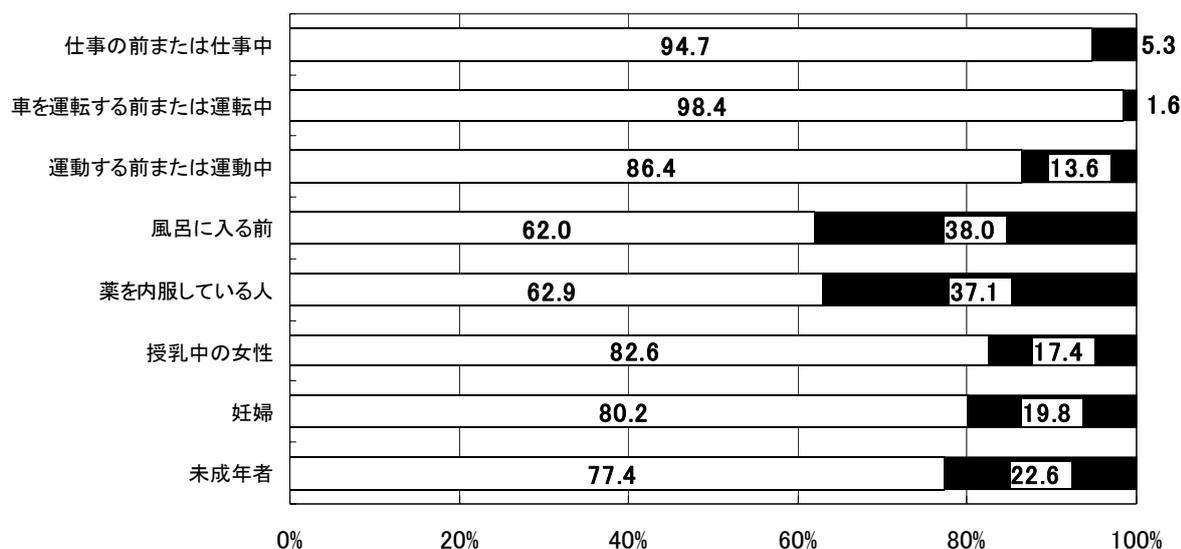


未成年者について「全く飲酒すべきではない」と回答した者の割合は、
男性で約8割、女性で約9割

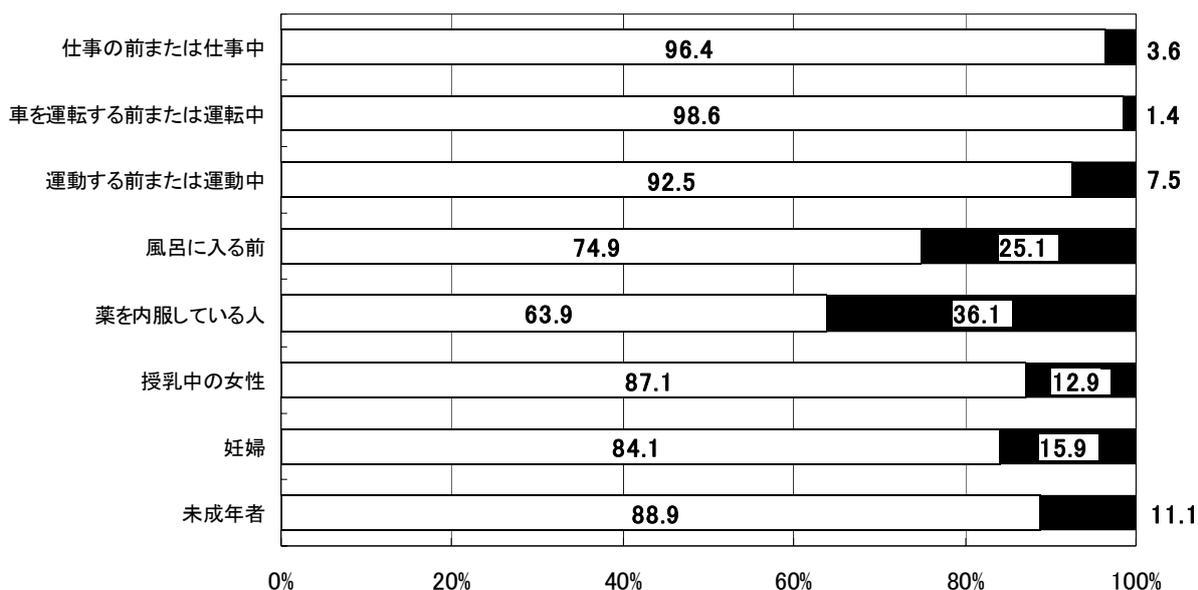
「車を運転する前または運転中」に「全く飲酒すべきでない」と回答しなかった者の比率は男性1.6%、女性1.4%であった。同じく、「妊婦・授乳婦」に対しては男性で約20%、女性で約15%であった。

図24 飲酒に対する意識(20歳以上)

男



女



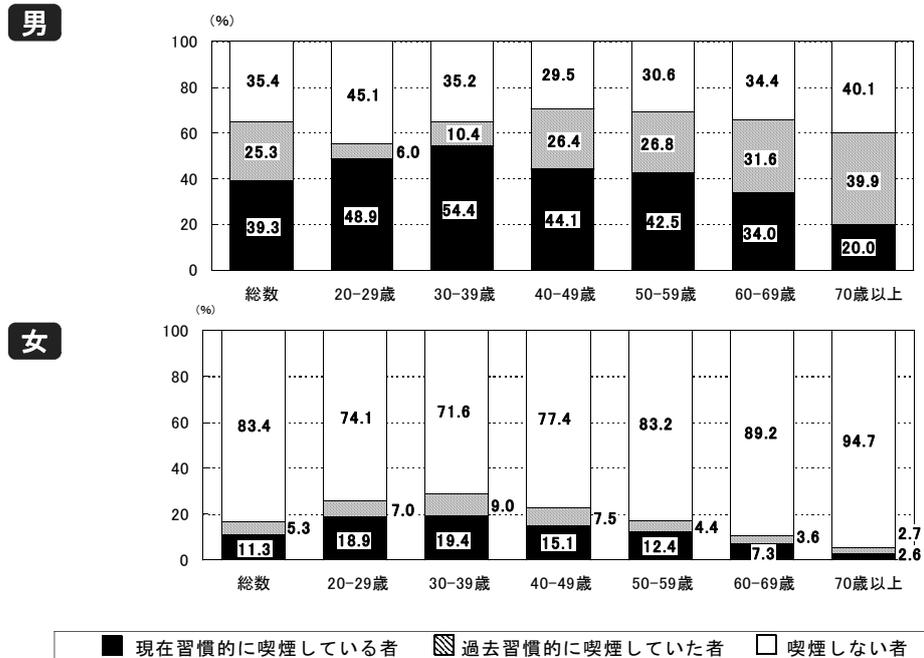
□ 全く飲酒すべきでない ■ 全く飲酒すべきでない以外

4. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は、男女共に20～30歳代が高く、男性で約5割、女性で約2割

現在習慣的に喫煙している者の比率は、男性では30歳代が最も高く54.4%、20歳代で48.9%、女性においても30歳代が最も高く19.4%、20歳代で18.9%であった。

図25 喫煙の状況（20歳以上）



現在習慣的に喫煙している者
 過去習慣的に喫煙していた者
 喫煙しない者

現在習慣的に喫煙している者：
 これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者

過去習慣的に喫煙していた者：
 これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている(吸っていた)者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者

喫煙しない者：
 「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

現在習慣的に喫煙している者における「やめたい」と考えている者の割合を平成19年に調査予定

喫煙率は男女共に平成16年に比べ低下し、男性は4割を下回った

喫煙率の年次推移をみると、男女共に平成16年に比べ低下し、男性39.3%、女性11.3%であった。

図26 喫煙率の年次推移（20歳以上）

